

第27回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業報告書

事業名

「中山間地域における地域の自然資源の活用による持続可能な人と里山の新たな関係づくり」

鬼無里地区住民自治協議会

経緯と課題

古くから里山の暮らしは、自然の恵みにより生かされ、資源を活用する知恵や技術によって維持されてきました。鬼無里地区は、平成の大合併で長野市に合併しました。合併後、人口の流出と少子化により人口が大幅に減少、高齢化が進み、圧倒的にマンパワーが不足しています。高齢化の影響により、管理や整備が困難になり、里山には放棄林や耕作放棄地が増え、環境生態が大きく変化しています。放棄林が増えることによって森林の生育不全や土壌の弱体化による災害等の発生も増えています。地域が営んできた里山での暮らしや文化が継承されることなく、忘れ去られようとしています。持続可能な里山の保全・維持の活動を行うための新たな仕組み作りが必要と考えます。

事業内容

- (1) モデル地区の植生調査
- (2) 地域住民へのヒアリング調査
- (3) 森林ボランティアの育成
- (4) 里山の文化遺産プログラムの構築



事業の成果と活用

里山の伝統や文化を継承するということは、里山の暮らしを継承するということだと考えます。茅葺や炭焼きといった手仕事によって生み出された技術は、里山の資源を活用し人々の生活を支えてきたものです。人々が活用しなくなった里山の資源を、再度見直して今の時代にあうような新たな活用方法を見出していく必要があると考えます。今回、ワークショップを通して様々な人に関わっていただいたことで、地区内の職人の技術を知っていただけた事、地区外に向けて発信できた事は、大きな成果と思います。技術者と積極的に関わることによって、その技術が人々の暮らしや地域と自然のかかわりを知る事が出来ました。

里山で暮らす人が少なくなった今日、受け継がれてきた伝統や文化を、継承していく事は大変難しい事ではありますが、これからは伝統技術や文化と人々がふれあう機会を増やすようなイベントの開催や教育の場としての活用を通して関係人口を増やし、森林ボランティアなどにより里山に人の手が入る仕組みが必要と考えます。